



徳川實記抄録

四

特別
25
2142
4



荷
德

伊予
番 2142
卷 4



元祿正徳の頃予は醫員の者と侍祿と世に
著後ふの如きは治療ふらざるの如く
さるるの如くは治療ふらざるの如く
少く勅と申す先息代より其志以者
此府の方書成りては其志以者
かた京傳の中興ふらざるの如く
尚白河野仙壽院通体橋本仙院元孝村田卷
昌和日記元林氏通完懸丹羽正伯國機路月

明
39年5月31日
林
維三助氏寄贈

三莫君彦林はつる國は甚多く山深林は是苑亦
世の人材と卷ひひり事のみを主とを所少
より所を放ゆる一其中少と通玄尚白をきて
此氣色小如るひ此藥の事とてちる流るり
一とちるはる日此藥と配劑を一時事小
河つる小網子某人役を先この例はとく
秤小減多分量決定をささしひらる
通玄尚白はていやくよ某を救十年來藥

用の事小脈練せ一とちれをじふもゆる
とちるはるもゆるもゆるもゆるもゆるもゆる
ふ登の遠ひはるへはと中さるは試とて
通玄のじふ如ちては後とひり一人参試秤
ましてゆる小毫厘もたかまゆる一は皆人
ゆる感後をてはる時諸醫試ははは先んれ
く廣東朝鮮の人参試定て其けとちめ
一め不格とてはる後と通玄のす不

いふかもしゆやまは人の耳目に驚くこと
と世に通玄奉比出薬の事奉りて勅勞
多かりしから法中に登をとりて一有ふ
某う後近の由恩遇給ひ奉るふ御ふ
才の榮耀とらふし事交ふるし不河次
と固く辭し終身法服を執るしを
なり世奉りて見も其人とたるは海に
みや

大坂小古林見直とて醫と業とつるもの由
祖父より連綿とて醫學の名をかりし
享保二年に府より侍醫林氏以重好とて
能経と諱をとりしは醫自れとらるる市
井の醫も多ふ由毎侍醫も此物をら積ふ
見直のりく名をかりしは一日不群聚る
者三百人小治するは其府よりある事河
とらるるは博知不惑といふ事一信を

者わたりて不並居事聴修中かくあつとく
高倉の屋敷ふうはつれ儒官の人と時刻と
遠く講をせらるると我世母以重好と
いふとせしめ紀藩の醫士とありと 公中細
言殿よりあつて順とつて脱進をいふと人とな
篤実とく醫道も熟しうはつと出有ふ時
紀州の藩といふ所とく生流とつて河内醫書を
講じあつと享保二年浄安尼公不陪後しあ

府小系で朝鮮の信使來聘をいふ時指有
いふ事客館ふとて免職し鷹鶴方の私
解しし奉りて丹羽正信自檢多ふ苗精の
主治を考論し又長壽小系ある藥種のを廢し
正し孝法の及魂丹辟邪香丁子圓和と製を
しあ奉りてつら後とつて信ふとつて百子の
是焼とも製して進ら次かく成るゑふあひ
年頃勅勞をいふ大痴小のやけし時とま

良喜重熙をたむ病體を治尋しつと失ぬる後
追悼の由詞を賜ふ良喜は少年を以て藥材の
事しうも亦たまふ事しゆゆを以て出亦り
ゆ一重依信の石種乳日光の人參の効驗を
試しめ給ひしよし花島田安の藥苑其るか
京都の華園紀辨林少く死を以て藥材の
事しこと司とらしめ之後長壽とて進呈
を侍唐土の書籍を以てしり事しとも奉て

朝鮮人來朝の時此書筒も國字とて一試して
佐覽小備小阿蘭人をも封給して治瘰癧を治せ
てと出さる一河とて一十年毎小會談を以てし
神田の石とる小郎尾茂端ひ早賤の者とも
普く瘰癧を治す一と仰らる是良喜の年少
と給くといふも廣く治術を施して業を
すめ給くといふも此有なること也これとせり
類ひ少く奇藥とも多く編り賤くも者多し

廣く療治し名醫小年成道白之術其
其名と世小波しるる不孝小して廿七歳まで
身中病とほく子ありし其家永く
絶りし其父良以の勲勞を思ふ毎
婦の大業小給事し年阿里智らに婚む之
家法如くしと傳下し後伴道與栄滿堂
良通完典を婚ししるる其子も若老の郎ありて
醫書及び文選抄講を著し其子も其後

小普活ふくし河をさし月次不出江て洋
笑の列小加しるる其子も其後小其醫
人ふしと逢く教を文庵し杯祥も其後
しられ石川小藥院を役らるし其事小以
かりし普救類を撰しれし時諸醫と云ふ是
加ふし其後信ふるし其經大全の和訳と
造るる事奉りし是皆其醫の医学成勵り
給ふし其の由有るを傳へし

皇月三英君彦らりし年ありて須明整吏
杯し書次梓行し一と名也世小傳りたる書條
二年八月廿日病老久保佐後也常春郎子也
醫學精し治療不心成りしゆり年出傳不
達せりし志川の藥院少く難治の者ありし
急小治りし一述不系りし治療法施せしと
治りし後ある世三英君彦らりしと成時し
志ぬしといふ下野の者ありしと云ふことあり

珍脈一藥成りしし江戸橋のよふ妙居るえり
小兒の肥瘠を危くしりし一試見ても自ら
藥成葉一撰りし事ありしと云ふことあり奇特
なりし云はりしと云ふ危くし侍醫不ふされ
法眼不叙りし事ありしと云ふことあり其名ありしと
ゆふし治療しと云ふ者ありしと云ふことあり市成
りしと云ふ事ありしと云ふ事ありしと云ふ事ありしと
市井の醫皆しと云ふ事ありしと云ふ事ありしと云ふ事ありしと

瘵代施庵一と思ふ女といひて後とて一め
中なるものいふ庵きい音あふかくして思ふ
昔も後不世事代傳はる三英り中斷理不
可か庵に醫生の中意ふかくて世にわふ事と
後らる一の世頃迄も英醫の事万石をよふ
人の家ふりうふ事無しうて後とて一に
世に時とて女を醫ふ瘵代施を代傳意中
それといひてふも後し之類に似ては瘵を

そふへきなること後下と後らる一也一説は祖傳と瘵代
三英り中斷理不

村岡庵かゝる云々

小南久後勝有らる一め英坊主女一に父母ふは
りある事一類ひなく志とてせ一中々も親小
はりある者醫を初ててとて古語ふら
はらるる脈論ふりて後とて一宮本春也
某といふ醫者一随ひ年代する意一後學ひそ
方とて中治瘵の妙代傳有る一といひてふ

車出候に達し近習の人々病候の時久延と
て家不仕かされて病御代回をく治薬をも
授けしめりて河村と出候にめり候
病の發る所林間と治候に醫方の事と
此身候の事と久延と變つ候時ひし
も彼らふとく薬を用ひ候ひし其詞
かしも遠く候は養生の事林建自せし
少く候より候は養生の事河村とせし

河村らをして同朋小列しあり候事
治しめり候は養生の事林建自せし
の病とも候は養生の事河村とせし
治候と候は養生の事林建自せし
候事と候は養生の事河村とせし
候事と候は養生の事河村とせし
候事と候は養生の事河村とせし
候事と候は養生の事河村とせし
候事と候は養生の事河村とせし
候事と候は養生の事河村とせし

由仁意の法政りしらぬ可くなくもさらせ給ふ
余り僻境の多民病何の時醫代むりたは
きなく非命に死する者多しと悲し
ま努むる事一年久しかりしに享保七年小
施薬院と設らるる多民病何者可く不年
多中法時と此藥代編るるに也觸るる
りりし醫員の流も市井の醫も廣く病と
療しおの技を試しと思ふ者も彼地

至り心の儀小療法を施へしと伝ふされ
りは是より醫も病者も彼所小群衆して
醫療大小何れも是是に施薬の所と
没考らるると思ふに之ら積り此や成爲道
能信通小命も是に此傳の史傳の中を療
病の事小河法るるに故事とも抄源にて
獻せしめられしとありしに相薬院を建らる
し後良薬多く下され其用にあらはれ

此自らも醫藥の事小常小沙汰一紙の良
藥奇方とも較多^教製もく後病老々を始
此例の危迫智の人こそと編り後園の女房達
少と下される外秋の群臣賤吏小玉の返も
たよる代得る事同くさひすと河津を編り
——とと少くは次奥醫者もあつた治療者
病人小出藥代法々一試一奉もあつた其年
おも龜腦催生丹陰陽二血丹杯々世人もあつた

あつた法中一に随ひ編る——と合もく後一もあつた
後さ出く編る——者といふ多かつた——あつた
施——玉ひ——つと高僧氏小玉返も出藥も
病代女も——と較多あつた——とあつた小玉返
石元也政光^{おむ}後^{おむ}元根来山派の醫一り出
あつたあつた熱湯散とつと世にすれ成良法と
傳下つた傳元河もあつた藥房もあつた製せしき
——といふつとつと頃の奉にや新番の組駿河

孫七郎國隆といふもの如く出生せんとて月夜の
駒北丈多は不満の可き一橋の内通東より一
軒しつと胡霜降く及みめらるゝ女は正座を
命人馬を不倒せしは子足麻しして歩行
其の事いかに次世世門の番に安多肥後守
忠方成しつと家人等出くやうく番所不
明りさ入るや女抱しとみし其家にいひやを
轆小字を命りしつと孫七郎の奥座を林

身適完巡麻舎以仙有勝と存藤治と語しに
かくと侍らる百子相一色成端ひ世業と一
病不愈しるは成りたる一と有し孫
七郎思ひも奇ら次終る可しとみ迷ふ
服用せしにいと収めしつと再び石見書不
法きそえしひ中やうと色成端りて服をしに
今も今く平愈せしはいと感念奉り
多石見書と宛不來りと添く御持恩と謝し

とあるは頂前なる不時の恩命形不好き事
河上と云々

政坐書成と常小出説河上之聖惠方和蘭向方
東醫室鑑外基秘要採らるる出成右手色
高由勘考河上又醫真筆著述を書と
献と一め事出説一諸國僻境小埋没
一たる代も購て承め事丹府不収め一免
然つて其頃遠國の英民等が為小命て海

急の奇方とも救多河上然らき善救類方と
名附く世と不^梓行を一めらるる福多若水
直義とく世上にゆら之後一本草に名河上
者河上と是とるるに松平加賀守綱紀紙筆と
給一高和府代類聚を一めらるる唐和類聚
と高河上と河上中使傳在京傳江年綱紀不係
下高河上と其年九月十有綱紀献一奉了
後不醫真丹府正治自穢小治を事補成

一 孫び一子卷ふらて今も冊所不傳らる
然るに冊所の事一に正伯としるに野呂元大實
夫桂村九平次政勝阿部友之進事号乃不治と
叙すてはしるに也

唐靈の藥代々奇功多しといへば教少僧も
すままに小さなしに緒の首家易不復用さる
事一此の事として情を憐れむに人參候にあ
世國の七姓不叶ふにままに藥種を無殖し候に

との盛命少としるに今一に續後多しとの
中少と人參らるにままに桂之されらるに事氏
河多得く用さるに事一候にといへば探索の事
世頃ら丹羽正伯自機野呂元大實夫阿部友
之進事桂村九平次政勝林信氏家之諸國の
海山函谷の馬氏探藥一事一に候に事は
河多事人胡解一り林記重としる者人參候
と候に事一に候に事一に候に事一に候に

を編り人參と此上の園中も種も其の
宗對馬も義誠少令一移し朝鮮より百濟
遼東の種代をく同く植せたりを比
多見彼西服十部右邊果とてその樹皮のふ
得る者成りて此上の海奉新ふりされり
藥種を培載せしめ移し一年に繁殖
一後ふり京都駿河林とて移し種も
一は更し海受りて移し藥小用なり其驗

少くは此より一年に京下もいそを殖せ
日光山淨土靈廟中も移し此の言ふと
編りて其醫等中も移しされり其心
一めり心移りて

亦の藥園より造りて出せり人參數多進覺
せし此湯中も葉一各其意成殊りて夫ふ
記号成りて是侍醫とてそのその湯と膏紙
多り其格のふ紙を傳へては此河をりて

其中小零片子人參人參の葉をとりて何れも第一
の上果とて中々種を出矢のりて凡朝解くに
来りて人參の價の減ふを恐れ人皆上果
思ふ少く成りしゆりて人參小限らば
何藥少ても年月厚るる氣味好きて功効
よりて人參の元氣代りたるもの功効を
尚新物とてとけたり今地を以て種を
種く製し一月以内八陣の外にのみ世に

用由事とせ宜し

是人參代りて女參種を種く種を以て
公西城不出後退りて後中風をくもやを
強ひて寛延二年其の頃より出尿の如く
常より少く海勢を諸醫より治すに
其驗一とありて石橋の醫宗武の侍醫高
元卓之丞出脈を以て治療の事傳りし
成る意不慮一とありて是返井上之文春院方

此華成奉りしをとりめ年元阜之冬此華成
進了せし侍ふやをとりし智強ひ此彌林を
智多しし一町し群居大不赤し合りし一畝程
ありしを元の一十女を智強ひ進了すま
よの強ふ及る智多しし其社甲克山侍良
修理のり奉りしをとりし女多し彼地不河を
盛暑のありしをとりし病ふ町侍者多しんと
此有少の者合及び昔醫士令して香露散成

調せしめし彼地不河一強ひ其社成撰
をとりし一編りしを撰不此易の期不の
才智強ひ進も人成意し七強ひ事成家
し一強ひ一有強ひ忠ありしと後不
文泰院可しと一と一
数学の奇合建部を成所賢法とて名譽
算学者のりし一強ひ網戸浦と海を成
所成中一強ひ一と一此無同河を成

精微を究め殆ひこゝに感為を加之殆ひ
事も何事も一かて誠不神の法也略凡憂の
乃少所小河次と云次所賢法も法感復
法少也此一して法放論と云云と之云るに
天文曆術と氏小時と授此要務多きを云て
是中も中も此心を用ひ殆ひ和漢の曆表を云
た之に和漢の説も廣く此實數を云ふは尚時
用ひらるる貞享の曆法と既脱多し誤と云

少可くは法也と天文方法川助九條春海父子
楮洞文次所其少也等河也一に文次所其業小
深うらさ法も昔々奉事河一に法も其次所
賢法京の源中根條右衛門云圭と一に法推奉
と云るも其條右衛門云圭法所少也此實同
とも河も一に河法も其業も一に明也其法
大小法有少可多し其源唐船小曆每金書と之
書代りしら一未也一法條右衛門云圭不詳也

他譯と命をうけりて以て譯本一通代
まわつて留りて其の別元に全書河内等
之并元と抄録したるの事元を其全書と
見さるんには本意元を明無志元と云々
中々抄録を居る其全書代持来る處元はし
長崎の奉行萩原伯耆守美雅元に度々
令もつらとて曆算全書と西洋曆經
のうららと抄録を元の事元に如く西洋

曆經の古書代りて来りぬ是代と條右邊の玄
奎小見ら奉代元にされ元ふ是元ふ元とて律曆
曆元名元白元は元く元つ元て奉元る元も其頃條右邊の玄奎
凡曆測々唐古の法皆録編元して用元ひ元給元し
明の時小西洋の曆学を元め元る元唐古小入元
後御元に如元く元り元少元可元く元以元本邦元に耶蘇
宗と嚴元く元標元く元事元少元り元る元と天主元に元る元
李鴻賓元林元の文字元の河内書元と元く元長崎元を

焼捨る振多れを曆字のたゞごととする書をもり
乞し本邦の曆字代精微ふりしりしめいよ
此有^り少く^く川洲^洲者^者禁^禁代^代ゆ^ゆ人^人を^を向^向し^し庫^庫と
建議^{建議}と^とい^いつ^つと

公^公正^正位^位の^のし^しめ^め少^少を^を出^出納^納す^す小^小窺^窺て^ての^の意^意河^河ま^ま
河^河ま^まし^しと^と皆^皆巧^巧代^代を^をま^まし^し玩^玩物^物の^のみ^み少^少を^を実^実用^用
小^小備^備少^少庫^庫ま^まつ^つか^かあ^ある^るし^しと^とい^いは^は同^同く^く出^出考^考
河^河ま^まる^る多^多意^意物^物多^多く^く送^送つ^つせ^せら^らび^びし^しと^とい^いは^は同^同く^く出^出考^考

凡^凡之^之清^清仇^仇朝^朝直^直浦^浦と^とは^は凡^凡之^之車^車方^方等^等奉^奉く^くる^る事^事
紀^紀州^州の^の良^良工^工加^加友^友全^全右^右清^清の^の代^代石^石成^成考^考道^道能^能信^信通^通
小^小書^書經^經璿^璿璣^璣玉^玉衡^衡の^の章^章代^代講^講説^説し^しと^とい^いは^は同^同く^く出^出考^考
小^小記^記して^て授^授し^しめ^める^るか^かつ^つて^て金^金右^右清^清の^の曆^曆象^象の^の大^大
意^意代^代を^を出^出考^考し^しと^とい^いは^は同^同く^く出^出考^考
渾^渾之^之儀^儀代^代造^造り^りし^しめ^めら^らる^る其^其製^製高^高く^く八^八尺^尺少^少く^く事^事
算^算を^を出^出考^考し^しと^とい^いは^は同^同く^く出^出考^考
の^の上^上少^少の^のと^と兩^兩考^考小^小河^河と^とい^いは^は同^同く^く破^破る^る事^事な^なし

世澤の成の中に入ると天賦の徳を以て時自月
早のふ度さしに見えたりとて河合の
成盈開格小昔の極早と曉の早と今に比ぶ角の
亦ふ河合に見る事多しと作をり後を久
矣かの蓋の中に入ると作を見しふとて
作のそく成りて河合に後を改
曆の事成思ふ事多し再び蓋用教多製
し終ひるの中少と彼澤天賦の製を愛し

日月早の成とけりて測量を以て為し無得とてふ
も簡易とせりて年漢出考のりて定享
元年にりりと思ふの成り其蓋と造りて
り簡天賦と名附多しむるも今もむるも
是用の所のもの別是かり後付曆測源とて
書成甚多しと進らむとて中も乾隆九年
清主の莫略をりて新造りて極底
りり成りたるも簡天賦の

製小少一も遠く次之可と永延享元年甲子の
彼地の乾隆九年小河のれり年といひ事と
いひ河人合ある事と北之に英明の至と和漢
有る部と一も此年かめと今又小感
奉旨可なり

世自ら自ら以昇成測量一移を心とて本城
西城の山麓山の上の山星の山園小本表成三事
その流も一りを道智の人々を所とるは地

者支配救田助八長短を其奥坊主林也皆智林
一須曆所の者をももろく測量一とて
之頃建部を次所賢弘日成測ふももろく是
河をたれも眼力ばかりも多観ひ能く一と中を
是少と出さるる事とあるまは勘考河を座脊と
刻る事牛時の日影と一入海子海に作る
之中少衡斜小度成重なり行を中と遠鏡と
可なりと流面小井字の縁を流る事と海没く

日鏡少事年時代報（其）時井字の中小日鏡の
入式待波衝度より斜度（後）を密に測る
時を二至二分の晷分（明）よりとありて是を
測牛表と名は事あり可く鏡中井字の線を
設るを古今よりありき事にはく実不感急り
出し前より後天文方西川忠次所正体これと
見く大少勢より歎く誠小前聖未曾有の奇
意と稱し奉りてと哲あるに尚代小玉を附蘭

進貢（七）一觀星鏡小井字の線代造りといはるるあり
はるは是はゆき〜商人等今小玉の〜めて考
出〜見（する）可く意公は後十年の〜は不
〜は〜らせあり〜とて司天の者今小玉は
〜感〜を〜
享保の〜めらるる雨水と〜を〜試〜は〜
事（七）ありて本城を風呂屋に小楠代出〜雨水と
た〜は〜を〜見〜と〜は〜上の圖中にも同〜

忠英の子小忠次仰正体といふ河をさく家守と
はるそ其術を精微小玉の家守喜た
たむをいふ戸小来りて天経或回と講
は成糊して有し成使石乃多浦と海人は
巫方といふ北河をいふ其術元小其精
から次上の園小多し多測量をいふ孫ひ小
忠次仰の中所感意小暗合せいふもやうて天文
方にかゝる神田仇久同町小司天の所と設きて

測量の調度其残り少く明いふう川さる所の
天文方徳川助九郎春海の子六藏別体後家忠實
考小主者いふ測量いふる改暦の事大方と
のいふいふ二人作と兼るて京小登つて御門
二位恭邦いふ改暦の事成りありに恭邦は
中々の世事容易ありゆき京小て再之説ら
しありてと定め能いといふさういふと梅原小
測量所と設きて其費用は年毎小金五言毎

米九百俵と端をぬきあるに梅町院崩をきく
かきとくし改曆の事代の旨を翌年迄出
さるべしと定められし公事大瀬小玉を孫中
の八世奉還す小成り云のこころは^おくして是
ぬるに誠不行し心厚くを習くへきの隙をかり
り架

佛教の事と云ふのは信用もあつたし一かとき
於て志終を次おふをてと大徳を以て以て

父古心入道初住を重て紀州の信免通す、因
國雲滿院赤海号す赤身同河より一車志りたり
赤海と云ふ頂学の老僧なり一かを菟春と
象や一と少可し八旬不余り大病ふのをみ
因味代食しるえ治療のきんきととも成しと
整のすめりかときらふ治まき事として
みらると傳は後継節代味増不漬しその味増を
潤しく授きしめ給ひられを皆人出心此

玉子海子代感一奉りしる相新海後後子ら
雲雲寺□□凌雲院□□少と回らせ給ひ
奉りしる河子代感⁵⁰の言を奉りしる書海河
子と河子とるを

如所羅漢寺少も放尊の比序をまゝ勢強子
と志もく河子代感少品懸息の所少も定免
られしと形をまゝめてまゝせ給ひとま
任持象先と河子代感少も禪学の比相海河子

後流僧と會して河湖回言抄りて比覽少
備するは法義真立の爲なり世集一年に
新可しと宣ひし少象先之れを流僧諸
國に集りし事いふ先を尋易少はひ能
しと申すはさしは人教を減くするは年
毎不絶を以てし一を費用中とて年六百
俵をりし給りて是を代官川崎平右衛門定
為少河子代感少は是代を寺の奉り法也

庵とて修むるは奇地と按るはもとて神更ふ
田圃松を剪断せし余詣の人ふ至成其心入き
案ふと皆蘇せしなり門松か大松を植て家
士見の松と名附給ふ可くも包くふ世心と云
らまゝ一の八世守いもく繁栄して後々伽藍
成りし後方繁榮先老後不及ひ明日の教習
の法松河をといふ成まゝなり殺生のをまじはら
しなきとあらしむる中々松をこゝろ思れ多しと

人々驚きし許ぬらむといふなり一尋の世事一は雲ふ
入世不親とては福機成は賞を以て其後まゝ
い奇ふなりし一尋の世事先門亦不相成して河は成
は悦んて亭坊とて来りて世と世を聲ふは
下は松一葉も河をいし世世先古流なり
再考なりて少年より福機と名付大般若
經とておのの子は血成りてて全寫したる
者なり其頃世中人中も此を以て智識とてま

一 皇の御子皇太子... 特恩を蒙
りし時公は大病の時と丹精沃伸て出幸會
祈し給ふ也

岩川傳通院大受不可... 頃古俗を中再建の
事... 寺... 院
□□ 小向を修す... 堂塔伽藍莫大の官造を
事... 天下太平の... 祖先
福の爲に... 佛祖の... 恩の厚き也

河... 二僧... 寺院... 莊嚴... 事... 佛
益... 事... 長者... 富
其の徒佛道... 信... 居... 莊
金銀... 莊... 佛...
中... 事... 河... 中... 心...
傳通院... 僧... 法...
代... 時... 可... 分... 壯...
海... 法... 中... 大... 製...

滅せしむるに郭内の護持院も焼亡せしむるに
再建せしむるに大塚の護国寺のうららに因れ
しとら護持院と云ふに常憲院殿の法時
範遇等より僧隆光成等めまのりて中城の
世富小南より城をさしむるに造らるるに
あつたふ成り惠子と白城の法護日光東殿の
し河をさしむるに官儀小南より造らるるに
地小南より造らるるに其頃揚州天王寺被壞

可くは修理し給ふるに事成らばしむるに
天王寺の佛法最初の地なれば諸國の寺院あり
お祈りな思ふに唐土に河の流しに寺院あり
各令帛代寺附し給ふるに修理を加ふるに
佛祖の意ふるに可くはしむるに國の諸寺院の
河より寺附し給ふるに物れらるるに東殿の
の事もいふに可くは修理を加ふるに可くは
経官の河より造らるるに是中古以来浮屠

等多く著修ふるに佛意を以て行はば
ゆく代敷の智路はひしく矯成言を續けし
其頃より高良大乗院一乗院両院に府系
向河より一寺に奉納す井俣縁寺利益の宅不
候して中送らるる一西門室ともいふに凡
く事河より西門室の縁館ふ系り中より
さるに能き公事有河より他不出りて西門室
駕成相ふるとあるに河館もねふりて中俣

りて稱え内河系を改観りて河系系下と
作下されぬと云く因縁酒井修理太史云 系
彼縁館ふ系りて西門室對面を南都興
福寺と古昔くこの大伽藍ありて純に元年
を^院之勢一造りて再建あり事誰か是代
か也と云くは西河の河内法とて造る
河心事一河を造りて是は是か
和歌の系河河内中も奉りてるに云く

江戸に於ては、はなはだ世に中絶して、その殿
意をともかく、難き一、あるも、こと、元も、角に、
造立の事、一、世に、
奉り、
中絶して、
彼族、
の事、
多良、
多良、

ありし寺院、
皆、
於、
名、
向、
世、

社荒廢を以て社僧困窮する者多かりしと因言
は者ら積是を以て後頼放せし寺社の諸國を
觀紀して金帛法施の事求むる事法也これ
弘島とも給ししる海に法僧と寺僧社人等法
法して國に法觀を以て終理をいふ事ししと法
下され者らと法是もあし法に政の之増成へし
祐天もこの其頃世も名るりし僧を以てしめ
増上寺の住職ありしと其條の事しめ其部

法令法傳めらるしと有る隨ひ系也法家の
心也思ふ事法建法寺法用もさるしと法を今
世も交らる事河しと法職法禱し麻布も隨
道して有る公増上寺も法僧河し時祐天の法
操法僧も及し世給ひし事しと法下も權も
祐天老さるしして是腰も自中ありしと法
法家の進退免中ありしと法禱しし事しと法
別具も色も法家しし事しと法其事ししと法

再度作の事には先折て衆不深ある事納
此覺したる事とて何の益の何しむと答ふ事
中より此流傳の事と今隠匿を以て言ふ事
亦亦亦亦事一字の先宗何事の是事と
然るく宗門の爲不病代投者も傳ふ事
多といふ事不祐天も詮方なく新語し各
才子の傳在教人少て蒲園の傳かきて
廟の元小す事不公の伝傳を以て傳ふ事

側近くあり事流も祐天乎とん事とん
せり代も先給ひ久たて對面も事とて
衆傳在河事とて祐天も事とて流傳
事の事と流傳と事と事と流傳の事
新事の事と事と事と事と事と事と
此傳傳の事と事と事と事と事と事と
今日と事と事と有章院殿法忌居不河と
新事の事と流傳の事と事と事と事と

可也ら無福を成うしひるまに別らるるや
内子又箇所小斗込無福を成く公代呪咀
一紙紙小書く無福たるを所する可なり
所不訴出れを奉行も控かく海き奉り
海をかくと傳上し小答を給ひ可なり
海と海き小河の河と一海不呪咀此の者河を
心不せ不呪咀とせよ少くも海き小河の河
海の海事河を海出さ乃と河建不控心

下と傳河の奉行等其法寛度小致版急き
かくと令し河を其日とせ河とるやみ
らると也

東叡山慈眼堂修理の門主より中法を
しにさへ手因室不新縁成安並正下とのと
のふそ河在修下されさるしりさるに中つる
海きよととるしと海なる頃大融院殿
廟大受不河としに是をと再造せらるし

靈位とて有院殿靈廟不配一寺なるべし
河内多修を門主とて再度中をりて修め
志多不門主の本坊も破壊をりて修理を乞
ふれにほりて今迄の製成減一校く造る
海一とありて門主是成候くは思われ今迄
退職して京不之修じして家司成京不沙の
こして出久上名の成有成親ももる公は世前
小納戸浦上は久丸妻の正方成りて伊ふ門主不

信進をり修一は高時四用之く下民の風
湯成救ふ不たらされ石時の者合をり
浮貴寶成減をんは成むはとあり時高は寺は
成成修成をんは成むはとあり時高は寺は
永寺は自除の寺院不たやらる海まは河内
いふも修理加くをり成へくはと一云を年の
あらしをりて神は佛字に華藤成りり委
修を乞ふは修無量ありふ有登成修りて

進路一めら侍る此の公卿の私奇と併し馬房
風ふかされ多し是風流と好し勢給ふのこほ
河次道一の技能代すめ給らんとの感言なり
と也侍下

之比府内の商人多受屋安丸書といふ者定家卿
其蹟安奇能奇古今相違の傳といふと其代
可流とるし女流及能信通世事と竹出
卷不侍上——の書代條摸して系し次

屋よりいしく信通刻ら摸字して此説なり
備ふ彼是此比較河次一に定家卿の三蹟小海ふ
りありり——から安丸傳の小書代奉へべきやと
信通りて同しめ給ふ安丸書り市人不精成志の
そのおてお母や書多しと居る事し河次もてと
いふしを久しに河次を信の流小系し次へ
これと其價と編る事しゆらせりかへし
いひて彼真蹟を奉りぬるて安丸傳小恩者なり

とる一と流儀の事一に元來彼三蹟を金百枚
小摺金と物の事一沽券に出して河内といふ
價をとも安んず國辭そのももるも廢棄として
白浪廿枚も下るへきとやと有る昔庫政氏倫
加納遠の事久通号儀一中々れとをさうく清
思葉の事と白浪十枚と方石の人ふ編るるは
ふれも商人の二枚やてもさうふれと中々或枚
ふりし便一とるも真蹟を兼る定りたる價をさへ

黄金百枚と換へ海一と流儀の事とるも安ん
清の事とて廢浪二枚別ふ書價金百枚とさう
一に安んず國辭の事ふれとるものも清の事
ふりし便一とるも真蹟を兼る定りたる價をさへ
浪と流る洋更一とるも真蹟を兼る定りたる價をさへ
一とるも真蹟を兼る定りたる價をさへ
事代活の事とるも真蹟を兼る定りたる價をさへ
て官事代活の事とるも真蹟を兼る定りたる價をさへ

これ程毎て再皮安丸事成るは彼を請掛様
殿覽不備られしに法感法より公事も終更り
悦をせりふ事と其法悦ひとして編するとい
百枚の金成りしれしを安住向可御成り
家ありの天説不備りたりあり御可の位を不
じり身小余りぬる飲ひたてんふりありし
そ上落千の恩賞賜る事謝答に御ありしと
落後して返さるるし是より先歳自の勅使中心

大相言兼親御中院大御言通躬御奉向御ありし
時彼を請掛を見せし御成りたり御書より見えし
乃そ次古今形ひかきしものなりとい推し御あり
靈光え上皇の殿覽不備りし上皇も殿感針御あり
定家の没後為氏為相の兄ありありありあり
時定家著述の御書より御送せりし御あり
りたりしれも其御のものなりしと勅使御ありし
その後御成り奉向御ありしと真蹟をそ冷泉御言

為久郷小端へ永く家職とせしむるべしと作
り侍されと大受抄不再び三蹟の失ぬ事承り
ましきに河原原を多り為久郷不彼三蹟成
條撰して府不系此下しと与り上り旨も
彼書成り久不授も終ひ道力為家めた免後
川一敷感河し一命也房の奉書成りとも為久
郷少々多しと祖先の傳道の古書再び之し
終り一奉を添く洋謝しと分不子法も其

蹟成字を不添て長歌成系し暫ら侍

子と也振神世の中は動するに大和語撰
言の多しとを法たやとらとと也法も一筆と
重る家の風吹抄し法絶ぬ及と成たり
まら河成た末遂不愚多るへまことしと書流
しとむじのしとの余波い法とと白浪のまを
をく多らる身不しとを子と之次水蓋の研も
ゆをふに明もやと月の面鏡も不取てら由く

ひりす可流うもて御もていふ言は樹の
し衆の意をせもきしは色もくい言不
あき嬉しとていふ言多に此をかりて
衆少の言のまゝの國代たぬしに敬奉と
和奇の浦松を添て君不けりといはれ
はよとぬ程とせし傳へし
うー奇

其帆も少く意の凡此使由も海に此和歌浦松

此和奇の字の一紙も海白紙に解改意は此
の書紙も収めて他人の見事な成りしは道成
は尊敬の意も河をかくは事あると為し御
尚時和歌堪絶の人々多かりし中少と定家集
血統の名家といひし不傳奏の殿も年々高
河にその其侍過大方なり侍恩もこれ事
も程多し河をさしを寛保元年八月七日公右衛
少うはしとさし大御言殿右通流大將の事あり

竹久次若狭二位権大納言不任兼進少輔時為久
郷少将御更不しぬき奉りて事

孫傳不ける小松めさかゆ事とりの伝ふ藤子

海川

と詠事ゆりし暫存ましと也

元文六年三月孝宣大納言頼胤御冷泉大納言
為久郷傳奏の儀を奉向の事しに内とことん
し有事もいりしや聖田川松留の由也

河上さらけ龍の口小舟移りし本母寺の茶園不
假の屋とるを設られ江東の江中海陸の古蹟
成りしちよかき流りて事しとも成り世時
松流也

ゆりうり世成りし角田川流の波也

さかみ

時しにとに流りし事えん流聖田川

けの波と流不白ひ事

久郷

墨田川に流るる都府有例とて
うや志候

花鳥にうやや子墨田の舟とて
見るを道の上

初花もりうや見ゆき跡り
河舟の上候同車

久郷の舟自標の事あるも折移り河舟
久郷の舟

信通といは浪浪為久郷の舟
此日と傳法法と終日まら
系をもあつたりと見ふも七音律の
二音法はくまてまひつ勢ぬ次の日信通
古きあつた舟道遠の舟とて海を
詩を乞はれて来らせし言とせし
常力河舟にてあつた時といへ
海舟とてくまて流るる舟とて

次第の事相世の事くもくも信通の儀右
の記河里を流の世に右附て今も家小流のぬ
寛保の事ぬ冷泉大御言為久御幸向河の時
靈元上皇の内出所望河の時都鳥の事古説
分明ありこれを殿説ありし事公伊呂
を都鳥の事聖河川の事位ある事ありし
傳中と云實を今も彼所多く群る勢あり
事代ひひぬと信河の時小御を松崎等

為恒業の事くたつちに聖河川の中を流儀のほ
とあるく大士の勢ありて来りて成是を
長悦堂久桐剛小と真代字を久御の儀館不
端もぬ之後加急道能和奇の事小を彼
旅館不來りし事都鳥中河九進信基不
逐く彼都鳥の事目くもあふ決地せし
殺しは為遠を以字してをらせしありし
河川の時為久の事くも同く事向を

妙ふうはぶれ元文二年二月十日山をそま子松現
 の洞窟令編ち宿務小端をりて水く社路り
 奇跡もくは元世洞々紀仔細然跡松現哉
 うはしーるゆに公世貴祥の地の流ち成をく
 るとこまひそめーと成思をりてかく家され
 ー成ーと祥成るを成流道流信通小
 作きて世碑石も兼ち然跡山の石成りて松よ
 出たふ垂れ成用るは世神の徳とも信通小

造りーめらるるこの標小流記川とつる河
 九右小岩小棟棠成ありー極山と子小極小ま
 ちの松殺十標成極ーめ山と西の田流くはわ
 葉成造りーめら流ーる極流源本間とる
 のせめら葉の元黄金とやとる極小是
 と景色いとむじ方外ー是府内通手ははる
 名勝成用るは流小極ーとの集事と也一説小享傳の
 毎春花の付そそ術皆寛永にまうと世興とー流小幕うらぬし酒み
 てらうかをーうらるれを祖廟通きほとてまふ極の成孝動河ん

此れふきに河は是府内北東の地とてふなりとて此を山城用
の事不語をいれりといふはとて集つて竟承ちらばつとに結た
大小の静加と也

一年冷泉為久々兼向河守時如信通使
として彼山のもと分枝成りて全橋寺高橋を
系とせしとて此奇とをて流しはとて此也

お枝のみ香成は原を此多山元の河の事
也

豊源よりまきく詠進河は此見の後是成全橋

寺小下され毎永く付ねとせらる屋久表楯
して此憩息の度と承ふをて此河府の
掛幅の画成りて此見しるは蓋のりはまふ
せ給ふ月見成りて記してはるは此奇特
如事なること俾河守の事為久々兼向
あつしは此の事かのみし小若もふりしとて海
京の品川の名小て全橋寺にともて場よとて
咲ぬともつもの花をのこ橋に此の河の色をよきし

一戎俄小女多宴不侍一其居腹不世成海
り一給とらとをれとをて終宿宴不陪一也
ら勢あり時も主従随ひ来をも一と也

河津も継絶無廢のる海川^{元文二}一これ給子余を
公武共不久不絶一と一曲水の宴成り及たこ

一ありと一しとの世事少て成るは氣信通不
信何うそ中右記等成をも一其私漢の書の中
と古例^例河津海くゆくを求られりかうふも

世自らの感之惠もて古今代野一給ひ遂玉附
のたきそ代定ら給京保十七年二月三日と事行
とる海あり一に兩ふさきとて因一と保月百邊
と事行る巨城大和寺利路田山主殿以意行^行と事
と保寺の方菅法之信正定保丹之府有直賢大
海雲平以典大久保保次郎忠喬成をも一其私漢の
女人世居の地逸不^不在代没也^也觸成流一也
詩奇成紙信通と別の傳と代法て世行

列一七言の古辨談はくつてありとまてみか
は赤く百多の種多く端を中各款をけく一
退きぬりふの序と備と評と直方補書
奉る信通とまてに假名の記談とて進もた
その幸福と今もあふあり

河内中郡のふとふは放鶴のついでに田の圃
可一に桃花の咲く或は説く松下仔細書
恒小世河くふの農民号ふ令て桃を多く植

一む一とふ多の咲あえ人も集りあはし
云民のたはあもたあ一と命をくは仔細書
て可いあはく河内とてははくもあはくは樂の境
ありと甲に往來絡得る一とあはくは人花の
の物小日氣談とくは龍の松は種一と令せは
相談とる農民少く賦税を減とくは河内とて
て後分中もは桃説く河内と桃花の咲くは法在
人に宴談場とては組むは民書本絶后改書

目付海尾年人龍明とて各詩奇成敏とてめ
らまらる中前舟塘の地小今も桃をひきよこれ
公の桂を七路ひきよとて今よと人をも海小
花時多月雪の打小好き近侍の人とて河合
免成り系川元清安長成鴻道龍信通等も
外近く給事とて人者成り人死家め成り
ま物とてとて花を山雲田川中北林の宮前
花をいぬ厨酒菓林成りひて樂いぬら

かて来れ今日と花人の多なりやと人七回
うらふ海成や林身成りひきよとて人め成り
息く和漢の文章詩奇とてはひらめ成り
信通をらとて事属也信通の花を山の死茶
ゆかりとて間の浦北楓とてひきよとて詩乃ひ
と名假名の文とも成り小就とてとて云肥海前
初備後後白安
近者用人秋生想七親備後橋隆高尚曰安喜并小
信通小手家切流の中の事成提ひてひきよ

三卷の記事をばくししめ終ひし事もいふ
公の御父光貞卿より將所揮幽守信の画法を
學ひ世も勝れ終ひし其も公も信知推して
画法好し字も勢もひる常小揮幽の画を其
南を妙法蓮華經の境小いし其も信賞歎り
りるのて頃揮幽とてや世も河より其も信を春林
常信法なる師とて終ひるを春林も叙又不
劣らざる堪能して其も中院内大臣通茂公小

信ひ常小和奇法字ひる法成りて画のたは
とかしく法を雅類する致類ひかかき
とて其も信を春林矢ぬる後とて子如川周信を
召て其も信とて可勢終ひし如川も世法も
しる法を其も子采川古信とて其も信も
と右家の末分りて其も信とて其も信
臨りて其も信とて画法成りて其も信とて
其も信とて春林も其も信とて其も信とて
其も信とて其も信とて其も信とて其も信とて

祇元迄不出教諭の事は放鷹の時も出さず
加ら積り景勝の地も至れぬ所から此の圖を
らしめらる既小令亦出將の事には陪從
してそと海を果せしめ流小屏風小押さ
りともや終更之圖の圖は教諭加らきしに
とて詳察不玉とてと多しとて知らん
尾張郡の鷹匠小齋小^と者河内少平
とて画成將此水三安信不学のひしし鷹

と元とて其職をれは加考形收成のきらめて
写三の妙成得たるは先友御是成也とせむ
屏風掛幅相のりし繪前せむしは流右小壺
せむれ成彩中とて所し小洞也とせむ
流りらまし二法成のりし流ひしりをも
し齋子も之流さる勢流ひしとせむしは
父君の遺法成りし勢流ひし純正成
繪前せむしは常川もし齋の彩中成流

高教の名可也然し中にも高の本不と
き法極らむしうしるるの各画中も
得しものやれふしうしるる常不出
栄川の名もきし法極らむしうしる
河まししひつる其法極らむしうし
今も高小教もきし法極らむしうし
いし法極らむしうしるる各画中も
きしうしるる今も高小教もきし

々法極らむしうしるる各画中も
高小教もきし法極らむしうし
あし

は自らも常小画可也然し中にも
勢に河もきし法極らむしうし
はつと高小教もきし法極らむし
河まししひつる其法極らむし
高小教もきし法極らむし

思ひつゝふとひちて物編をもつて其後佐例の流産
小納戸奥鑿筆も近も編もつて一筆もふとひちて
古画成層説一も一筆も常小出樂一とせき
一も一尾港家の花物王碩の画も遠浦海帆の
圖陳所為の龍牧溪の鼠松平又三席の先祖
と徳院殿もつて恩賜せし一牧溪の雁の繪松平出
羽也宣維の傳來もつて一古依光信の画一深元
平治物語の画成もつて一ぬ宿光少光もつて也万石

とつとよの人と其下は可い近寄りに秘藏もつて
日毎もつてつてつてつてつてつてつてつてつて
奉り画もつてつてつてつてつてつてつてつて
画もつてつてつてつてつてつてつてつてつて
一に画者の名成作もつてつてつてつてつてつて
一に大方遠もつてつてつてつてつてつてつて
者の手跡返もつてつてつてつてつてつてつて
骨董等もつてつてつてつてつてつてつてつて

諸家の藏物々々見たりたると感々言ふ叶と書
紙ひらく由自らも模写し紙ひ追記又と画二
小令して多く字々紙一と諸國の寺社の縁記
卷の類もとに多く紙々今く字々紙中不
後ういひに与されし河々ありて固本善悦豊又
固則格多多く模写して奉まうて今矣不統りまし
模本の類多くと世時のものありとや
式時矣醫坐号河市不河りえ何くれの物語を中不

誰かの有りし如瀬年人正幸の家不聖材の鐘尅
の磨滅の圖代紙一をうと紙更ふらるる見たり
是代法書見し徳也不意一をを献りてと心
多うしやうしを故もかく人の海軍代なる事
家り好まき侍奉ありと字ひらく大不長板し
て退きぬと後紙厚く何れ多く成漸々家の書類
画は覚河と一と作らるれれを進説を一紙書
久小叶し由自ら條換り多く原圖々永く其原不

秘藏其下とて返して之れぬ又將跡如川周信の
家の鐘櫃の掛物に名丹唐古不とありし時彼地を
之のさきよりして等楊といふ印章河の遠祖
古法眼元信より傳下と傳下にして不忠不孝
公家此所古不と先垂を給ひ是も由親換り
多後如川の勢不跡就とよとく之より將跡
探常守富の所統の唐画成進覽せしに是は所
物ともて是麻呂波女校とて授けしと也

昔名丹唐古不とありし時瀟湘の地不姓ひる所
業成るるに之の余るといひのら彼地の八勝を圖
し之らの名のかくし流すも時ひる所を定め垂て
本邦に海の室所將軍勢不奉るとあり慈照院
義政公書画成をしし事流るるに其甚き
就ちも是に應仁を大の流と法にあらは矢
し之の所もしたしかかりたるに事なりと云
六十年に尚存すとて世に公たふ丹成好のせと云

うら御府の正統式をいぬ諸君の物ともいふ
めして出覧の事いふ八勝の圖のうら蒲湘夜雨
秋元但馬守喬房平沙齋雁と松平敏後と長
照のあふりて遠寺晚鐘と白天氣聖の二幅と
紀伊あふりて淡村夕照と松平九条大吏和也
のあふりて洞庭秋月と松平小ねと山市晴嵐
遠浦海帆の二幅と三蹟のあふりてあふり
いふと画工特跡栄川曲信のあふりていふ二幅の

模本城のりつていふ是誠合をいふ八勝合の値
とるいふは悦斜のいふ享保十四年栄川小合
とていふは圖たといふは條換せといふ宗亭帝
御書の順次小合といふ帖とせといふ氷の法統
具といふは
本阿保集の元といふは厨下に立並て焼小うは
といふは古き屏風といふといふは八山の圖成糊と
いふは画工特跡随川甫信といふは繪といふは

人の書一物と見ゆれば河や空昏暗一たれ
三層のちちも見ふ融一とひの随川を後
出淵尻加納をいふ久通不かくと流る一を
いふとみふそ中流之上一にまはは世現河人
一とく一を色一は是を氷徳堂信々真蹟
すめひあ一かく塵ふ者り一塵へきまの流
次とて世目く指辨はるそ糊子考成一そ
画成流補をいふ一いふ中もまう一す可ふは徳

重信の筆意河とる^ルうらそ一は屏風とあをり
公には世現河のそえ中流少く是ふか一
今ふ拾遺流をいふ一とすり大流近のそ無
許小東流流士の家小周文の山水の屏風河を
中流流をこれをも免一高は物ふせ一を
流のそく流を一め流ひ一とめり一か
流のそく流一とを
御齡のそをせり一流のそく古画流

悦く多くたのたりくふくとあるれりの國本
悦く多くら兼り諸家の源藏ちり代持出る
法悦んとせ奉法の日善悦寛永寺に詣て
執南悦主院小世奉詔りての後雲院
大僧正是代守彼少の政主公遵法親王下園え
上一に法靈居の法りくと悦とありしむらの悦も
河をはりすりとくと多家小收院のりの悦
けく多くと山中信坊のお近と強りり集て

悦く元小送りときて悦屋を持出る
悦く少徳と一と多其時止く多く于光院
とく信世奉代弟りとて法法一長樞樞
悦くはりと日毎小悦りとり集りと
悦く
ある日信因靈の法りとふに悦自ら十曲の離岸小
水雲の止水代とると悦り悦悦悦悦悦悦悦悦悦
神逸の風韻代とあらきと悦悦悦悦悦悦悦悦悦

得意不_レお_レし_レ海_一より子_レ也_レ女_レ信_レ通_レ成_レ石
席_上に_レ角_レ是_レ不_レ詩_レ成_レ題_をよ_と信_レ通_レの
時_レ在_レ不_レ得_レ成_レき_一小_レ姓_レの_レ人_レ不_レ是_レ成_レ磨_レの
筆_レ濡_レせ_レ其_レ身_レの_レ出_レ成_レ不_レお_レる_レ假_レ山_レの_レ河_レを
う_レか_一細_一細_一海_一より来_レる_レ幸福_也
な_レ次_レ出_レ画_レの_レ子_レ不_レお_レる_レ長_レ篇_レの_レ詩_レ成
其_レす_レと_レ題_一より_レ其_レ出_レ成_レ色_レの_レ信_レ通_一
河_一より_レ其_レ出_レ成_レ欲_レ海_一より_レ其_レ出_レ成_レの_レ名

得_レ成_レの_レ信_レ通_レは_レ屏_レ風_レ也_レ信_レ通_レ信_レ不_レり_レ席
よ_レお_レて_レ題_一より_レ其_レ出_レ成_レの_レ詩_レ成_レも_レ其_レの
集_中小_レ載_レる_也

紀_一伊_一國_一形_一智_一の_レ能_レ海_レ内_レ才_一の_レ瀑_レ布_レと_レ梓_レを_レ重
能_レ多_レく_レ山_レ陰_レ不_レお_レ流_レ成_レ是_レ山_レ陽_レ不_レ向_レし_レ角
流_レ成_レの_レ信_レ通_レの_レ出_レ成_レ不_レ出_レて_レ見_レる_レ時_レを
形_レ智_レの_レ山_レ多_レく_レ其_レの_レ信_レ通_レの_レ出_レ成_レ不_レ出_レて_レ見_レる_レ時_レを
色_レ成_レ不_レ絶_レ信_レ通_レの_レ出_レ成_レ不_レ出_レて_レ見_レる_レ時_レを

おろしつる頃此境河をこし一城廻る山を次
河位はかせ給ひし後画小籠こごるもの成り
土地不しつらしめて勝多成りけり世給ひ掛
幅と分してたの成は不掛りも此是就河に
しつるなり

園中若悦豊久とてると紀藩少く幼年とて余
道切とてし給事しつる風慧人ふ誠画也河
りつるも甚是春河とて画成も智る給り

之頃と將跡巻抄常信書充せしに可とて
世ふ河の流りて三月杯に紀藩少れ糸願せしに
今日とて世も巻抄とて束をいぬ画成字も人可ら
可ら右巻の重なり各親をもの成り見るとし流
らる障子の後小成とてし巻抄の進退の幅を
見やし給ふ後此目成り遠く画成大に
長し中画二巻にも方幅しつるなり
小は放論河をいし流る書著色料しつるなり

絵の画法は勝を遂ふ一畧にせし
中城ふうはせはひ一後將師揮信守政如
川周信永信主信号成臣て
今日繪師共出るを知人ふふりて世後画法の
云相身ふふ一なり作らるる也

任吉因記廣守と古伝流の画工は服具交廣流子
田藏元廣傳り次男あり祖又々志成は子画事ふ
う成はひはぬの也古志京保十九年十月

十位に成ふは多画工の列ふ加らる古伝の流を
中邦上古の製衣及成考するの登河里と成り
て成ふはくも事画可成はひはれ右
京ふ進了成はる硯画の繪形解玉に編り
屏風や一後二年軍記の画落圍八幡宮の
額二十六奇伝の繪中と成も命をくれ一其
其時書とわくら意成通も人成圖成造る
形成河一原成を成るう時代を考て版師

調皮の類ひ近も河や海もあしくわしと
可の長悦りて作らるる京も大書巻は再興河
り一時も日記屋も羽舎友之進五満と云は京に
登せ給ひ其親武の河も白紙圖して奉ら
しらるる流竹右京を義峯の家に傳へ
奇仙の繪巻也成光りて出覺河も公仇信實
の筆にりて希世のもの也りしと傳授す人
も成合をりて日記もいしと記事にありし

精力成るし少も古色も遠王原うりてを
けり是れ古の良辰調皮成考りて今たり
多々成るも汝の家も傳へ氷く形中と成りし
作らるる今も汝の家も傳授すといふ事
画工も成るも亦も古席とわけて繪成りて出覺
る事も成るも探幽守信の傳へも傳授すといふ事
多々成るも傳授すといふ事
欲も事も成るも公中城も成るも

此度世序画成さしめて此境河を以て小蛇
河集の巻悦小序画成さしめて此分くさみ
あしとや序小巻悦を以て洗思して撰本
成練覧一移力成さして画く事成しを以
流し序画を以て海とて世今諸大名奉
の打画二成招き序上にて河を以てしとを
負の樂と云ふ事一と云ふれは法要云々と
云ふ此の興ふと云ふ海と云ふも河と海と云ふ画の

精妙成んじと云ふは撰本教多見合と一めを
能前成撰して心静ふと云ふも成んじと云ふ
若れ序画を以て用と云ふと云ふと云ふと
因記序画の易と云ふと云ふと云ふと云ふと
序上と云ふ家の画法抄と云ふと云ふと云ふと
此序成失と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと
後後明院殿世奉成序上と云ふと云ふと云ふ
粉色の圖を以てしと云ふと云ふと云ふと云ふ

将野栄川典信後醍醐天皇御筆の事此の如き

画成若悦りて出て法悦に備るに女を筆力

の勝れを成常一紙に栄川知りて之も女

瓦人小教らと近世将野氏おく名実を不慮人

加は探幽小教らたる者かこれと探幽とを平

と一学さんと思ふと遂に不出る事か

探幽亭のし一所と学さんと思ふと一紙か

学ひ一と栄元の名画成を一めけ國ふ一と會丹

元信信実光信村の妙く成河は免谷其長ら

初を成るそと女は成河の高妙のにも

成河の中たる事汝打小娘をて栄川小物成る

成河と成ひ一かしかくと成るに栄川小

後群の女成る者かれ成河に成河多偏小感

成河一精力成はけ一と其業成も成か一か

後年にも成るそと其名成河を一と成

探幽寺信光信の才子小松尔探幽某といふ者

信とこれとをいふはふやふの流の家の流子
越すや良年成造りて出原事とらぬぬと申
にも彼苦管の等と結結良かると今ふ
玉の流の画子も用ひて流の家とていふ

